



夏季研修会報告

8月29日（火）に、愛知教育大学特別支援教育講座の岩本佳世先生から「発達障害のある子どもの理解と支援 応用行動分析学の視点から子どもの行動を理解する」という題目で、地域の小中学校の先生方と一緒に御講義を受けました。

【講義より】

- ・DSM-IVからDSM-5の変更点について
- ・発達障害のある児童生徒を理解するときに必要なのは、その児童生徒の「非定型発達特性」と「適応行動の問題（生活上の困難状態）」であり、支援が必要なのは「実生活上の困難状態（適応行動の問題）」である。
- ・非定型発達特性そのものを変えることは難しいが、「発達障害の状態」は変えられる。

今後に生かせる有意義な研修会になりました。



子どもがその行動をする理由を推定するためのアセスメントの一つに、応用行動分析学に基づいたABC分析があります。ABCの3つに分けて整理すると、適切な行動ができていない理由を推測することができます。



応用行動分析学の関連書籍 参考文献

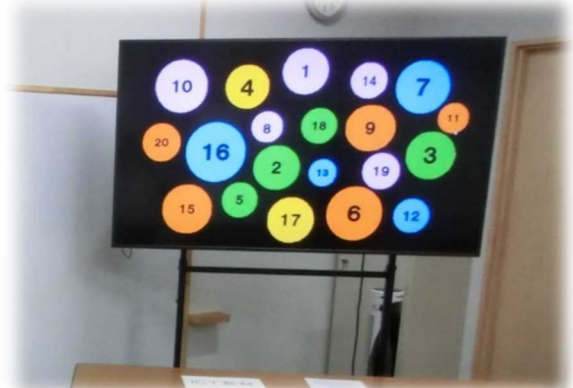
- 『施設職員 ABA 支援入門—行動障害のある人へのアプローチ』 村本浄司・著 学苑社
- 『応用行動分析学から学ぶ 子ども観察力&支援力養成ガイド』 平澤紀子・著 学研教育出版
- 『応用行動分析で特別支援教育が変わる 子どもへの指導方略を見つける方程式』
山本淳一 池田聡子・著 図書文化
- 『発達障害のある子の「行動問題」解決ケーススタディ』 小笠原恵・著 中央法規
- 『発達障害のある人の問題となる行動を解決するための理論と実践』 井澤 信三・著
あいり出版



教材教具展

本校相談支援部所有のものや個人で製作した教材教具を紹介する教材教具展を夏季研修会と同時開催しました。見学された地域の小中学校の先生方からは「材料等も詳しく書かれていて参考になりました。」「取り入れられそうなものもあった。」などといった感想をいただきました。

展示された教材教具カードは、本校ホームページに掲載してありますのでご覧ください。



本校相談支援部が所有している、自立活動の関連書籍の紹介コーナーでは「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の自立活動の6区分に分けて書籍の紹介をしました。見学された先生方からは「実際に手に取って、中を見ることができてよかった。」「参考になる書籍が、たくさんあった。」などといったご意見をいただきました。

